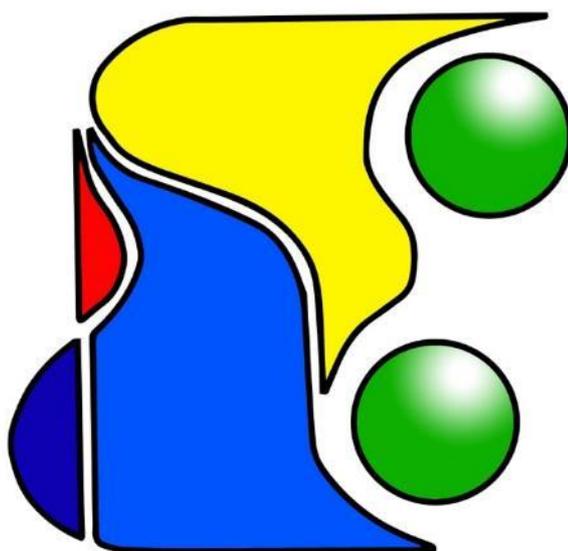


SPACC
先端錯体工学研究会

The Society of Pure and Applied Coordination Chemistry

SPACC News Letter (February, 2026)



SPACC ニュースレター (SPACC News Letter)
(2026 年 2 月号)

目次

1. 研究紹介「錯体を用いた空気中のアンモニア回収から水素貯蔵まで」

琉球大学 理学部海洋自然科学科化学系
中川 鉄水

2. The 31st International SPACC Symposium (SPACC31), 1st Circular

大阪公立大学大学院理学研究科化学専攻
西岡 孝訓

3. SPACC 一般会員及び学生会員ご入会のお願い

4. 今後の行事予定及び事務局からのお知らせ

★賛助会員からのお知らせ

Contents of this issue (February 2026)

1. Featured Research “Ammonia capture from air and hydrogen storage via ammine complexes” by Prof. Tessui Nakagawa at Chemistry Program, Department of Chemistry, Biology and Marine Science, Faculty of Science, University of the Ryukyus
 2. The 31st International SPACC Symposium (SPACC31), 1st Circular
 3. Invitation to join SPACC – General and Student Members–
 4. Upcoming Event Information
- ★ Recommendations from Supporting Companies

錯体を用いた空気中のアンモニア回収から水素貯蔵まで

琉球大学 理学部海洋自然科学科化学系

中川 鉄水

e-mail: tessui@cs.u-ryukyu.ac.jp

- ・空気中の微量アンモニアをアンミン錯体の形で回収・濃縮する
- ・アンミン錯体等から水素貯蔵材料「アンモニアボラン」を合成し、燃料電池の水素源やエネルギー・資源キャリアとして活用する

世界中で脱炭素というキーワードのもと、水素エネルギーの利活用が推進されている。その中でアンモニアは水素源としてのみならず、直接燃料としても肥料としても利用でき、幅広く利活用できる。そのため最近では水素よりアンモニア利活用の声が高まってきている。アンモニアは古くからハーバー・ボッシュ法により産業用として大量製造されてきているが、その水素源は化石燃料に依存している。そのため再エネを用いたアンモニア製造に期待が寄せられているが、現状は高コストであるため脱炭素には安価なアンモニアの確保が求められる。一方で我々の生活圏内に目を向けると、アンモニアはトイレ、汗、下水処理場、堆肥化施設、畜産現場などあらゆる場面で発生し、悪臭の元として忌避されている。その濃度は臭いと感じたとしても 20ppm 程度と低濃度であるが、アンモニアは腐食性があるため建造物を侵食し、寿命を縮める可能性がある。そのためアンモニアは「脱臭」という名目で除去されているが、視点を変えればエネルギー源・水素源となるアンモニアを回収していることに他ならない。そのため低濃度のアンモニアを回収し、脱臭かつエネルギー回収を行えば、回収量は少なくとも蓄積して非常時などに利用することでまとまったエネルギーが得られるため、複合的なメリットが出てくる。本研究室はこのようなコンセプトのもと、金属塩や固体酸、アパタイトなど様々な材料を用いて空気中に存在する微量のアンモニア回収技術を確立すべく基礎・応用の観点から研究を進めている。またアンモニアを水素に変換する場合、通常用いられる熱分解では高温を要する。そのため低温で水素を取り出す技術として、広義の錯体（配位化合物）であるアンモニアボラン（通称 AB: NH_3BH_3 ）の実用化を目的とした基礎・応用の研究を行っている。他にも本研究室では、リサイクルや水素吸蔵合金、堆肥化反応の化学的アプローチなど様々な研究を行っているが、本稿では上記 2 物質についての研究紹介を行う。

金属塩は、気体状態でアンモニアを吸蔵しアンミン錯体となる。その圧力(=濃度)は、水素吸蔵合金と同様に $\ln P_{eq} = (\Delta H/T - \Delta S)/R$ に従う (P_{eq} : 平衡圧、 ΔH : 反応のエンタルピー変化、 ΔS : 反応のエントロピー変化)。更にギブスの相律 (自由度=成分数-相の数+2) により、二相混合状態で自由度が 1 になると平衡圧が一意に決まり、

ほぼ一定の圧力で吸蔵または放出反応が進行する領域（プラトー領域）が現れる（図1）。このプラトー領域の圧力（対数表示）と温度（逆数）のグラフを作成し、その傾きから ΔH が、切片から ΔS が求まる。吸蔵・放出両方で ΔH 、 ΔS を求める必要があるが、アンミン錯体の場合は低圧や常温程度では放出反応が非常に遅いかほとんど不可能な場合がある。そのため本研究室では、金属塩については吸蔵特性の温度依存性を測定することでアンミン錯体の ΔH 、 ΔS を決定している。また、アンミン錯体は古くから知られているにも関わらず、無水アンミン錯体や不飽和アンミン錯体の結晶構造が不明であり、データベースにも載っていない場合が多い。これらの錯体は、技術的に単結晶育成が不可能に近い場合、本研究室ではリートベルト解析等を用いて結晶構造を決定する試みを行っている。

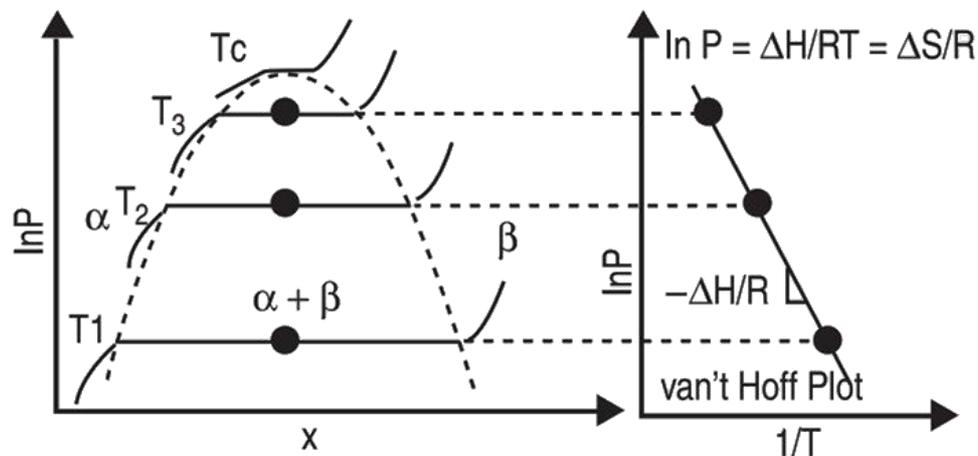


図1. プラトー領域を有する材料におけるアンモニア吸蔵・放出特性の概略

一方、金属塩以外にもガス状態のアンモニアを吸蔵する材料は存在する。例えばアパタイトは非常に低濃度でアンモニアを吸収するため¹⁾、脱臭剤として期待できる。しかしながらその最大吸収量・吸収圧力や貯蔵形態のメカニズムは不明であるため、本研究室で調査中である。その他にもイオン交換樹脂や固体酸などもアンモニアガス吸蔵特性等を調査している。

アンモニアボラン (AB) は無色透明の固体であり、アンモニアとボランの配位化合物である。その化学式からわかるように多量の水素を含有しており、重量水素密度が 19.6 質量%、体積水素密度が $148 \text{ kg H}_2/\text{m}^3$ (理論値) である。これはどちらも水素貯蔵材料の中でもトップクラスで、重量水素密度では最近社会実装が加速している水素吸蔵合金 (LaNi_5 : 1.4 質量%) の 10 倍以上、体積水素密度では液体水素 ($70 \text{ kg H}_2/\text{m}^3$) の倍以上であるため、エネルギーキャリアとしても期待される。更に分子量が 30.87 g/mol とホウ酸 (61.83 g/mol) の約半分であるため、ホウ素キャリアとしても優れている。そのため製造コストが多少高くても輸送コスト圧縮分で水素・アンモニア・ホウ酸価格が従来より安価になる可能性が高く、エネルギー・ホウ素輸入に適している。また AB を燃料電池の水素源として利用する場合、その高い水素密度ゆえに分散型電源や移動体、(かさばらないため) 非常用として適性がある。そのため本研究室では、産学官の様々な共同研究者と共に AB の社会実装に向

けた研究を行っている。中でも 2020-25 年に採択された NEDO 「燃料電池等利用の飛躍的拡大に向けた共通課題解決型産学官連携研究開発事業」では図 2 のように 4 つの課題（製造、貯蔵・輸送、利用、リサイクル）について、多くの要素技術を開発し、かつ様々な基礎物性を明らかにした。以下にその主な成果を紹介する。

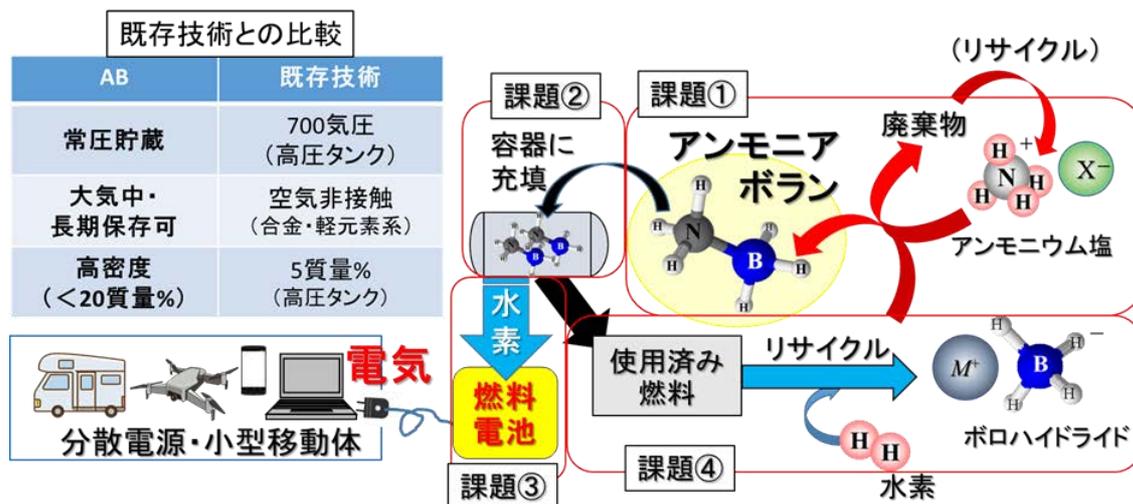
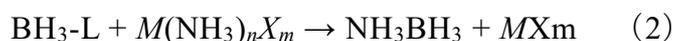


図 2. NEDO 事業におけるアンモニアボラン開発課題項目

アンモニアボラン (AB) 合成法において、現在最も低コストとされる合成法は、以下の一般式で表されるメタセシス（複分解）法²⁾である。



従来法はテトラヒドロフラン (THF) 中で水素化ホウ素ナトリウム (NaBH₄) と硫酸アンモニウム ((NH₄)₂SO₄) を 40 °C で攪拌する方法であるが、①合成時間が 8 時間と長く、②THF が過酸化発生の危険性があること、更に③スケールアップすると収率が著しく下がるという問題があった。そのため同事業では、①の解決策として一般的に反応速度が速い配位子交換法を用いることを着想し、以下に示すボラン錯体とアンミン錯体との反応による AB 合成法を新たに開発した (特許第 7340256 号)。この反応は、室温において数秒で進行する。



②については、式 1 の方法では原料の NaBH₄ が加水分解するため水の混入を避けてきたが、アンモニア水を用いて水中での AB 合成に成功した (特許第 7792690 号)。しかし収率が低かったため溶媒比率を変更し、液体アンモニアに少量の水を添加することで高収率・高純度の AB を得ることに成功した。③では濃縮・乾固に時間がかかると自己分解を起こすことを見出し、自己分解を抑制する添加物を用いることで解決し、更に THF 使用量を 80%削減に成功し、乾固にかかる電気代を大幅に節約できた。

AB の貯蔵・輸送においては、安全性や保存条件などのハンドリングに関わる情報が不足している。特に MSDS は既存のものでは一般人が利用するには不十分で、取

り扱いのガイドラインも未整備であるため、これらを調査した。毒性試験では、体内に入れなければ刺激も無く安全であることが明らかになり、着火試験も着火・延焼は容易だがホウ酸の気化熱により鎮火が速く非危険物に該当するという結果が得られ、比較的危険性は低いことが明らかになった。腐食試験では両性元素やゴム・紙系統の還元されやすい物質を除いて利用できることがわかり、保存試験では4年間空気中に曝してもほとんど劣化しないことや、低湿度であれば50℃でも1週間劣化しないことが明らかになった。このため、長距離輸送や家庭での非常用水素源としてのAB利用は他の貯蔵技術に比べて非常に有利であることが明らかになった。

AB水素放出については、加水分解と熱分解が主流である。これまで加水分解はアンモニアの発生と高濃度AB水溶液使用時のホウ酸析出という2つの課題があったため、本事業ではこれらを解決すべく様々な酸による加水分解を検討し、安価なクエン酸（特許7589984号）と最も軽量なギ酸に候補を絞った。クエン酸は無害で入手しやすいが、重量密度・リサイクル性においては不利であるため、最終的にギ酸を選択し、AB水溶液とギ酸の比率・濃度を最適化した。これにより8割以上の水素を1分以内で放出し、かつアンモニアも条件によっては0.1ppm以下（燃料電池に求められる水素純度のISO規格）まで抑制することに成功した。加えて反応後はホウ酸が自然に析出するため、リサイクル性に優れていることも明らかになった（図3）。

この反応で発生した水素を用いて1kW級燃料電池を1時間（水素流量12~17L/min）連続で発電することに成功した。熱分解においては、ABと金属水素化物（MH）、イオン液体（IL）を任意の比率で混合することで、11質量%以上の水素を60℃・1時間で放出することに成功したが、アンモニアが数%放出することが課題となった。熱分解法のリサイクルは、使用済み物質を加水分解により一旦ホウ酸に変換することでABを再生産する方式を確立したが、更に経済的・エネルギー的コストの低い技術を確立する必要がある。

この他にもABから熱水分解で発生した水素・アンモニア放出量の連続測定と発生ガスを用いたSOFCによる発電に成功しており、ABから放出されるアンモニアも発電に利用できることを示した。

上記のように、本研究室では古典的な錯体と広義の錯体について実用化を狙った基礎・応用両面から研究を展開している。これらの更に詳細な研究内容や、他の研究について興味のある方はご一報いただきたい。

参考文献

- 1) H. Nishida, et al., *J. Environ. Chem. Eng.* **5** (2017) 2815-2819.
- 2) P.V. Ramachandran and P.D. Gagare, *Inorg. Chem.* **46** (2007) 7810-7817.

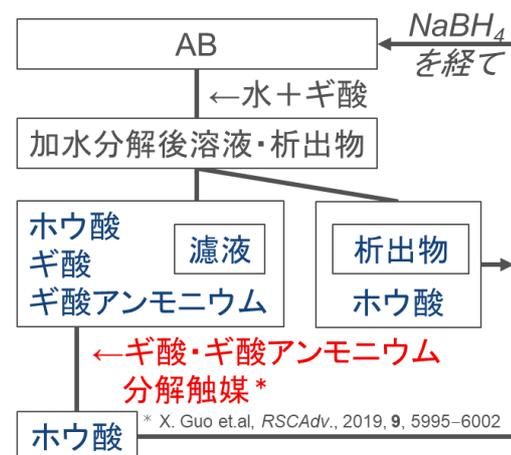


図3. AB-ギ酸加水分解のリサイクル

2. SPACC31 1st circular

The 31st International SPACC Symposium

“Innovative Applications of Coordination Chemistry for Sustainable Development”

July 10–11, 2026

Osaka, Japan

First Circular and Call for Papers

Organized by

The Society of Pure and Applied Coordination Chemistry

Osaka Metropolitan University



INVITATION

Dear Colleagues,

The 31st International SPACC (The Society of Pure and Applied Coordination Chemistry) Symposium will be held at Sugimoto Campus of Osaka Metropolitan University at Osaka, Japan, from July 10 to 11, 2026. The International Advisory and Organizing Committee cordially invite you to attend the Symposium and participate in its scientific and social programs. The main theme of the Symposium will be “Innovative Applications of Coordination Chemistry for Sustainable Development”. Coordination chemistry provides a versatile platform for developing sustainable technologies that bridge fundamental science and practical applications. In particular, innovative ligand design, metal complexes, and coordination-based materials are increasingly contributing to green catalysis, energy technologies, and environmentally responsible chemical processes.

This conference especially encourages contributions from early-career researchers, as well as studies arising from academia–industry collaborations, that demonstrate how coordination chemistry can address real-world sustainability challenges. We welcome original research spanning fundamental discoveries, proof-of-concept studies, and application-oriented developments.

Topics of interest include, but are not limited to, sustainable catalysis, energy-related coordination compounds, environmentally benign synthetic sustainable and industrial catalysis, energy-related coordination compounds, functional materials for environmental applications, scalable synthetic methodologies, and coordination chemistry inspired by biological or natural systems.

Presentations will consist of three categories, several invited lectures, oral presentations, and poster presentations. Prizes will be awarded for the best presentations, especially for students. The International Advisory and Organizing Committee hope all registrants will present a paper, but acceptance of papers will be at the discretion of the Committee. The official language of the symposium will be English.

In the following pages, you will find details concerning the Symposium. We look forward to meeting you in Osaka, Japan.

Important Deadlines

Early-bird registration: **June 1**

Application of all presentations: **June 1**

Payment for registration fee (domestic participants only^{*1}): **June 8**

Abstract submission: **June 8**

^{*1} Only bank transfer will be available for early-bird payment. Participants from overseas must pay the fee at the symposium site by **JPY**.

ADVISORY AND ORGANIZING COMMITTEE

Chairperson:

Takanori Nishioka Osaka Metropolitan University

Co-chairperson:

Mitsunobu Sato President of SPACC / Kogakuin University

Hideki Hashimoto Kwansei Gakuin University

Secretary:

Yuriko Matsumura Tokyo Healthcare University

Kozo Fukumoto Osaka Kyoiku University

Committee member:

Yutaka Amao Osaka Metropolitan University

Haruo Akashi Okayama University of Science

Kozo Fukumoto Osaka Kyoiku University

Hideki Hashimoto Kwansei Gakuin University

Naoto Kuwamura Kogakuin University

Kenji Matsumoto Kohchi University

Yuriko Matsumura Tokyo Healthcare University

Yuji Mikata Nara Women's University

Chihiro Mochizuki BIOAPATITE, INC.

Hiroki Nagai Kogakuin University

Takanori Nishioka Osaka Metropolitan University

Hiroyuki Nakamura Tokyo Institute of Technology

Satoshi Nakamura Tokyo Institute of Technology

Ikuo Nakanishi National Institutes for Quantum Science and Technology

Toshihiko Ozawa Nihon Pharmaceutical University

Toshifumi Satoh Hokkaido University

Yuko Sugai Kwansei Gakuin University

Kei Takeda Takeda Rika Kogyo Co. Ltd

Masayuki Takeguchi National Institute of Technology, Numazu College

International advisory board:

Cheng-Hsin Chuang	Southern Taiwan University of Science and Technology
Terrence J. Collins	Carnegie Mellon University
Jianmiao Dou	Liaocheng University
Ouyang Jie	Tianjin Institute of Technology
Xiao-Yuan Li	Hong Kong University of Science and Technology
Li Lu	National University of Singapore
Chris Orvig	University of British Columbia
Shie-Ming Peng	National Taiwan University
Tim Storr	Simon Fraser University
Xiangshi Tan	Fudan University
Shenguo Wang	Chinese Academy of Science
James Wright	Auckland University
Handong Yin	Liaocheng University

CORRESPONDENCE

All correspondence concerning the Symposium should be addressed to:

Takanori Nishioka
Chemical Emergence Laboratory
Department of Chemistry, Graduate School of Science
Osaka Metropolitan University
3-3-138 Sugimoto, Sumiyoshi-ku, Osaka 558-8585, Japan
Phone&Fax: +81-6-6605-2569
E-mail: nishioka@omu.ac.jp

VENUE

Science Hall, Science Building G,
Former Education Area in Sugimoto Campus,
Osaka Metropolitan University

<https://www.omu.ac.jp/about/campus/sugimoto/>

<https://www.omu.ac.jp/en/about/access/>

SCIENTIFIC PROGRAM (Tentative)

The Scientific Program will include plenary lectures, invited lectures, oral and poster presentations. The official language of the Symposium is English. Registration, all lectures and oral and poster presentation will be held at Sugimoto Campus of Osaka Metropolitan University.

Friday, July 10

8:30 – 9:00 Registration
9:00 – 9:10 Opening Remarks

Morning Session

9:10 – 12:00 Lectures and Oral Presentations
12:00 – 13:00 Lunch

Afternoon Session

13:00 – 14:30 Poster Session
14:00 – 17:20 Lectures and Oral Presentations
17:20 – 17:30 The rites of SPACC-awards
17:30 – 18:00 SPACC-Award Lecture
18:30 – 20:30 Symposium Dinner

Saturday, July 11

Morning Session

9:30 – 12:00 Lectures and Oral Presentations
12:00 – 12:15 Closing Ceremony & the Rites for Poster Awards

REGISTRATION FORM

Registration should be made via email. Please use copy and paste the following form, complete it, and send the form via e-mail to Professor Takanori Nishioka (nishioka@omu.ac.jp) with “Registration SPACC31 (your name)” as the subject.

The deadline for early-bird registration would be **June 1**, through Bank Transfer only from a bank account in Japan, by **July 8**. For participants from overseas, the registration fee should be paid at the symposium site by JPY, and no payment by credit card would be useful. However, the early-bird registration for participants from overseas should be made.

Registration form

Name:

Title:

Affiliation:

SPACC member (yes or no):

Student (yes or no):

Grade (if you are a student):

Banquet (yes or no):

E-mail:

Telephone number:

Name(s) of accompanying person:

To Pay by Bank Transfer (only from a bank account in Japan), please send your payment to:

Bank Name: Japan Post Bank (ゆうちょ銀行)

Branch name: 019

Account name: The Society of Pure and Applied Coordination Chemistry (先端錯体工学研究会)

Account number: 0773549 (当座)

Please input the registration “SPACC31” before your name.

Registration fee

Registration Type		Early-Bird Fee* (Deadline: June 1)	Regular Fee (at symposium site)
Member	General	¥15,000	¥30,000
	Student	¥5,000	¥10,000
Non-member	General	¥25,000	¥40,000
	Student	¥8,000	¥10,000

Banquet

General ¥ 8,000, Student ¥ 4,000 by bank transfer before July 1, 2026

General ¥ 10,000, Student ¥ 5,000 at symposium site

Venue: Metasequoia, Tanaka Memorial Hall (in Sugimoto Campus of Osaka Metropolitan University)

The refund policy for cancellations is as follows:

- For cancellations received on or before June 1, 2026: Full refund
- For cancellations received on or after June 1 until June 30, 2026: 50% refund
- For cancellations received on or after July 1, 2026: no refunds.

APPLICATION FORM FOR PRESENTATIONS

Please use copy and paste the following form, complete it, and send the form via e-mail to Professor Takanori Nishioka (nishioka@omu.ac.jp) with “Presentation for SPACC31(your name)” as the subject, by **June 1**. The deadline for abstract submission would be **June 8**.

Presentation (oral/poster):

Title of the presentation:

Author's Name(s):

Affiliation(s):

Address:

Presenter:

Grade (if the presenter is a student):

Student Award: yes or no (not apply) for Lecture or Poster

E-mail:

Registrations will only be made via e-mail (nishioka@omu.ac.jp).

ORAL PRESENTATIONS:

Abstracts should be prepared according to the Abstract Preparation Guidelines described below. Authors can download the abstract template from the website (<http://spacc.gr.jp>). The abstract should be sent via e-mail (nishioka@omu.ac.jp) to Takanori Nishioka with “Presentation for SPACC31” as the subject, and “your name” as the file name. Only Acrobat PDF files will be accepted. The deadline for abstract submission would be **June 8**. Authors will be informed within 3 weeks, if their contribution has been accepted for a poster presentation rather than an oral presentation. Standard facilities for PC presentations will be available at the Symposium site.

POSTER PRESENTATION:

Poster presentations will be very welcome as well. Authors should submit the same information (including an abstract) as listed for oral presentations above by the same deadlines. The poster presentation session will be held on afternoon, July 10, Friday. All posters will be placed on the viewing boards from the Friday morning and will therefore be available for viewing during coffee breaks and lunch for the duration of the conference. A board (approximately 90 cm width, 160 cm height) will be available for posting each presentation.

ABSTRACT PREPARATION GUIDELINES

1. The abstract should be submitted in English, the official language of the symposium.
2. As the submitted abstract will be printed and reproduced directly without any editing, special care should be taken to ensure high quality of text and diagrams.
3. Authors can download the abstract template from the website (<http://spacc.gr.jp/>).

3. SPACC 一般会員および学生会員ご入会のお願い

先端錯体工学研究会(SPACC)会員の皆様におかれましては、常日頃より本学会の活動にご支援・ご協力を賜り、誠にありがとうございます。学生の皆様につきましてもご入会をお待ちしております。ご希望の場合、1研究室あたり年会費 1,000 円で、20 名様まで入会・登録していただけます。SPACC が主催する国際会議において、講演賞・ポスター賞の審査には、必ず学生会員登録が必要です。

[年会費]

- ・ 個人正会員
賛助会員 (1 口) 10,000 円
正会員 : 3,000 円
- ・ 学生会員 (1 口) 1,000 円
(1 研究室で 1 口につき 20 名まで)
- ・ 法人会員 (1 口)
維持会員: 10 万円
一般会員: 2 万円

振込先: 先端錯体工学研究会

- ・ 振込用紙を用いた郵便振込
00130-7-773549
- ・ 銀行からのお振込
ゆうちょ銀行
(金融機関コード: 9900)
〇一九店 (店番: 019)
当座 0773549

*学生会員の場合:

会費の振り込みの際は、担当教員名か研究室名を、通信欄あるいは振込者名に書き加えて下さい。また、登録学生およびメールアドレスは、忘れずに事務局宛にお知らせください

[入会手続]

- ・ 電子メールによる手続

以下の URL に記載されているフォームをダウンロードするかコピーして必要事項をご記入の上、
jimukyoku@spacc.gr.jp 宛に送信してください。

個人正会員用: <http://spacc.gr.jp/page2e.html>

学生用会員: <http://spacc.gr.jp/page2f.html>

法人用: <http://spacc.gr.jp/page2g.html>

- ・ 郵送による手続

以下の URL に記載されているフォームをダウンロードして、必要事項をご記入の上、事務局宛に郵送して下さい。

個人正会員用: <http://spacc.gr.jp/page2e.html>

学生用会員: <http://spacc.gr.jp/page2f.html>

法人用: <http://spacc.gr.jp/page2g.html>

郵送先

〒141-8648 品川区東五反田 4-1-17
東京医療保健大学大学院
医療保健学研究科
松村 有里子

4. 今後の行事予定及び事務局からのお知らせ

主催

The 31st International SPACC Symposium (SPACC31)

場所: 大阪公立大学 杉本キャンパス

会期: 2026年7月10-11日(金・土)

担当: 西岡 孝訓 (大阪公立大学)

本号の 1st circular をご覧ください。

編集後記

本号では、先日の SPACC 年会@琉球大学でお世話取り下さった、中川鉄水先生に、研究紹介をご寄稿いただきました。広義の、と書かれていますが、ボラン錯体を用いたアンモニア回収・濃縮・輸送を実現し、実用化も見据えた研究を進めておられます。熱力学を用いた基礎的理解から、輸送物としての腐食耐性試験などの応用研究まで幅広く研究展開されており、基礎研究を生業としている私にとっては実用へ向かう研究展開の生きた実例として、大変勉強になりました。年度末の大変お忙しいところをご寄稿、誠にありがとうございました。本号では、さらに SPACC31 の 1st circular を掲載しました。7月大阪をまた一つの目標にして、研究を頑張りましょう。(桑村)

ニュースレター担当への問い合わせ方法

ご研究紹介等、SPACC ニュースレターへのご寄稿をしていただける場合や、本会が主催または協賛するシンポジウムの情報は、事務局までお気軽にお知らせください。

先端錯体工学研究会事務局

E-mail: jimukyoku@spacc.gr.jp

東京医療保健大学大学院 松村有里子

高速液体クロマトグラフ質量分析計

Liquid Chromatograph Mass Spectrometer

LCMS-8060NX



Enhanced performance

Sensitivity and Robustness

- 世界最高クラスの感度と測定速度
- ダウンタイムを最小化する高い頑健性
- ワークフロー全体を効率化する操作性



高速液体クロマトグラフ質量分析計

Liquid Chromatograph Mass Spectrometer

LCMS-2050



SIMPLY EFFORTLESS

LCMS-2050は、装置サイズの大幅な小型化と、分析の高速化・高感度化の両立を実現したシングル四重極質量分析計です。極限まで小さくなったボディの中には、島津の技術が凝縮されています。LC検出器としての使いやすさとMSの優れた能力を掛けあわせて、完璧なユーザビリティを追求した質量分析計、それがLCMS-2050です。



LCMS-2050の特長や動画をWebでご紹介



Analytical Intelligenceは、島津製作所が提案する分析装置の新しい概念です。

システムやソフトウェアが、熟練技術者と同じように操作を行い、故障・結果の良し悪しを自動で判断し、ユーザーへのフィードバックやトラブルの解決を行います。また、分析機器に対する知識や経験の差を補完し、データの信頼性を確保します。

Analytical Intelligence logoは、株式会社島津製作所の商標です。